

【観光】

- 人気のある都市や都市間競争に勝っている観光都市は、リサーチとかデータに基づいた戦略的なプランを具体的につくっており、それを高度に専門性のある方々、組織が動かしている。本当にプロフェッショナルな人材が観光を考えて、マーケティングプランをつくり、動かしている専門性の高いチームづくりについて考えていく必要がある。
- ターゲティング、ポジショニングなど専門的な知識を有した方々をチームに入れてもらいたい。専門性が高いという意味は、本当にお客さんが呼べるとか洗練されたデザインがつかれるとか、おもしろい、お客さんの満足度が高いプログラムをつくれるとか、本当に結果が出せるという意味なので、その辺にこだわってほしいと思っている。
- 人材を確保し育成することは大変である。私の会社の従業員では7～8割を女性と高齢者が占めている。観光産業はほとんどサービス業である。この地域は、ものづくり産業への支援は数多くあるが、サービス業への支援はない。サービス業への支援を考えてもらいたい。
- 行政がけん引する観光推進においては、プロモーションとか宣伝とか地域でのイベントづくりなどに偏っている。商品・サービス開発、生産性向上など産業支援的な側面も観光においては非常に重要なことである。
- 観光ルートバスのメーグルは、観光客視点からすると使いにくい。名古屋駅、名古屋城、栄、大須を結ぶもっとシンプルなルートがいい。また、ビッグバスという屋根の高いバスが世界各国でブランド化して走っている。それを名古屋にも取り入れることを考えると、名古屋は世界で見るとマイナー都市なので、民間事業者でやるには初期投資が見合わない。そういうところが行政のお金が入るべきところではないか。経済合理性が伴わないが将来的には伴っていくはずの最初の部分を行政で賄うなどの手法が必要ではないか。
- 市中のイベントとか海外での宣伝とかセールスコールみたいな話は商品を持った民間事業者任せにほしい。行政は、民間事業者が活動しやすいように文化財や道路、公園などの規制緩和や観光産業に関わる市場のデータをしっかりと揃えるといった支援が重要である。
- 名古屋は、いろいろな新しいイノベティブな人間があらわれたり、プロジェクトがあらわれやすい。ほどよく保守的ほどよく自由、そして経済的基盤がある。愛知県はなぜ寺が京都より多いのかというと、それだけお金があったからと言えるし、お金があるからこそスポンサーがいるのでいろんなアイデアが醸造してきて花開いたと感じている。
- 名古屋はとても可能性がある場所だと思うが、実際に行政でお手伝いをしていると、いろいろな規制がたくさんある。行政はもちろんそれでなくてはいけないと思うが、規制を緩和していくことが新しい場を生み出すことにつながるという視点も大事である。名古屋でいえば、例えば映画のロケーションでたくさん規制緩和されて使えるようになったから、かなりの有名作品でも名古屋が使われるようになった。

- 名古屋市では開府400年のときに荒俣宏さんという作家をグランドプランをつくるエグゼクティブプロデューサーにされた。その人だけのアイデアでやらなくても、誰か1人を立てると事が動きやすくなる。1人に集約し、ある程度個性化しやすくして規制緩和していくと、自然発生的に都市の中でソフト的な交流ができてくるのではないかな。
- 名古屋市立大学に観光学部を設置するのはどうか。観光学部をつくれば観光が活性化されるとは必ずしも思わないが、少なくとも観光を勉強したい人が全国からここに来ることは間違いない。名古屋市として観光を特別大事にしていこうという有力なメッセージにもなる。

【産業】

- 社会の仕組み自体が劇的に変わる中で、それに備えていくためには、大学の知識やAI、ICTを使ったベンチャーをいかに誘致するか。そして意欲のある彼らをどれだけ勇気づけて支えていくかが重要ではないだろうか。
- 名古屋には学生も優秀な人たちはいるが、卒業間際になると、進路が東京に向いてしまう。彼らは現状も知っており技術もあるので、この地域に彼らが活躍できるバックボーンさえあればやっていける実力の持ち主であり、名古屋でそのまま就業できるようになるとよい。
- 名古屋市の情報通信産業は東京の8分の1、大阪の2分の1にとどまっており、外に出ていってしまう学生はもちろんのこと、今ここにいる若者たち、やる気のある人たちへのAIとか情報のプログラミング、ソフトウェアの教育を徹底的に急いでやらなければいけないと考えている。それによって、今後、中小企業、ものづくりだけではうまくいかなくなってしまいうような企業も、AI、IoT、ビッグデータを使った先端技術で産業転換に耐えられる。
- 現在、東京で活躍している若い人たちを見ると、お金があるからやるというよりは、そこに楽しい、興味のある、先端を知っている仲間がいるからやっているという感じがするので、そういう場をつくることが大事ではないか。
- 国際会議の誘致先として名古屋は非常によい場所ではあるが、名古屋市の国際会議場は、規模が小さく、ホテルが周りにない。世界のトップレベルの先生方とか研究者の方が来たときに、会議に集中するために国際会議場とホテルを行き来したいといった要望は多く、そういった部分を改善していってもらいたい。
- この地域の産業は、第一に自動車であるが、今後、次世代自動車産業にシフトしていく中で、従来のような組み立て中心ではなく、人工知能やビッグデータ処理など、様々なITのウェイトが広がっていくことで、従来西三河に立地していたものが都市型産業になっていくことが予想される。
- 名古屋市は近隣の産業都市群に支えられて生きており、近隣の産業都市が、この先、自動車で世界競争に勝っていくためには、名古屋市の役割は従来にも増して大きくなっていく。その視点でいくと、戦略において「名古屋は次世代自動車産業に特別に力を入れていく」ということが見えるようにするべきである。
- いま品川がものすごい勢いで投資されていて、品川に次世代自動車関連の自動運転やIT企業が立地されると、名古屋には何もなくなってしまう。そういったリニアによる

ストロー現象に対する危機感を持つ必要がある。

【都市魅力】

- 名古屋の最大の課題は、東京に人が転出してしまうこと。特に女性が多いこと。その理由は、名古屋はクリエイティブさが欠けていることであると考えている。この課題解決に向けては、教育から意識しないといけないのではないか。多様性を認めるような教育など、名古屋市は教育で独自性を発揮してほしい。
- 東京の人に名古屋はいいよと説き伏せるよりも、アジア地域を意識して名古屋を売り込んでいくというストーリーを持って、シビックプライドの向上に取り組んではどうか。
- 女性は共感の生き物で、おもしろい・楽しいことに頑張れる人たちである。去年から名古屋市が行きたいまちワーストで2連覇となったが、皆すごく悲しがっている。
- 宿泊数が伸びている都市には、2日分の行きたいところがある。この地域には三英傑がいて、ドラゴンボールやアラレちゃんで有名な鳥山明先生もいる。こうした地域の宝を活かして2日間楽しめるコンテンツを考えていく必要があるのではないか。

【スポーツ】

- 今回の計画の中でスポーツという言葉を使用する際は、一生懸命頑張って勝とうとする人間をつくろうとするのではなく、お互いが伸びていくために何ができるかをクリエイトする場所がスポーツだという位置づけが大事である。
- これからは、特定の場所に人を集めて、特定の仕組みの中でスポーツをやってもらうというスポーツだけではなく、「自然に、まちの中で生きているとスポーツ的になる」、「まち全体が身体を使った遊びのフィールドになっている」といったまちづくりが求められる。必要なインフラの整備を段階的にどのように進めていくかという長期的な視点があってもいいのではないか。
- スポーツの効果として、SDGsの達成をめざす国際的な動向の中では、個人の「らしさ」を育てていくことができる機能に注目されている。自己有能感と置きかえられると思うが、「自分はここにいていいんだ」、「自分にも何かできることがあるんだ」ということを身体を通じて感じるができる。
- もう1つのスポーツの効果として、人々の集団としての社会の中で機能するリーダーシップの形成がある。特に社会的に弱い立場、マイノリティとされる人々に対する教育的効果の点で注目されている。たとえばSDGsにおいてはジェンダー平等の達成をめざす中で、女性のリーダーシップの育成にスポーツが有効活用されている。
- メディアでは、基本的にはアスリートの最も活躍している瞬間の姿しか目にしない。アスリートは勝っている時は注目され、大事にされてきた。近年、変わるべきだと考えられているのは、彼らの20年後を見据えた応援をどうするかという発想や、彼らが引退後に社会の中でどのような人生を送っているかを子どもたちの人生のモデルにするかという発想である。アスリートは、様々な場面で頑張れる人が多く、計画的に、緻密に行動することができる。彼らの能力をスポーツ場面、アスリートとしてだけでなく、まちの中で上手に育てたり、機能させることによって、ロールモデルとして提

示できれば、子どもたちにああいう人になりたいと希望を持って育っていただくことができる。

【国際交流】

- 今後、名古屋にとってアジアとの関係は特別に大事なものになっていくことが予想される。中間案に外国人住民の推移を表すグラフがあるが、アジア出身の外国人が増加していることを目立つように表現したほうがよいのではないか。
- アジア大会のレガシーをどのように考えて残していくか。アジアに特化した国際競技大会であることを契機に、アジアとの関係性を深め、アジア諸国に名古屋という都市の認知度を上げていき、更なる交流につなげていこうという視点が重要である。

【女性活躍】

- 今、国の方針で働き方改革法案なども通り、多種多様な働き方を取り入れていくことに動き始めており、短時間正社員の制度を導入したい企業が増えているが、特に中小企業の事例がなく、これからどんどん労使が話し合っ、多様な働き方の取り組みをしないといけない時代になっていくと考えている。
- 女性の起業はほぼサービス業である。また、ここ最近、社会課題解決ビジネスに取り組む女性も大変多くなっている。女性の起業家が増えると社会課題解決も大きく進むと考えている。
- 女性は在宅での自営が得意である。しかしながら、在宅での働き方について、セキュリティの問題で自宅の住所が出せない女性が多いので、例えばコワーキングスペースやレンタルスペースができ、女性がその住所を借りられるようになることが進むと、起業も大変しやすくなるのではないか。
- 女性の起業は、対象が女性であるサービス産業が多く、従業員として女性を雇う傾向にあるため、女性の起業・続業支援は名古屋市にとっても大変重要な施策になると考えている。

【まちづくり】

- 日々歩く道路の風景がすてきとか心地いいということが、クリエイティブなことや健康づくり、何か新しいことをやってみよう、人と人がつながってみようなどの寛容性の演出や創出に重要な要素になってくる。
- 走っていて楽しい、どこにでも歩いていきたくなるような歩道やまちなみが非常に少ない。このまちは車にはすごく優しいが、人が歩く場所としての道本来の機能があまり大事にされていないという感触がある。

【市政運営】

- 行政の方と仕事する際に、縦割り組織、（予算の関係で）事業者が単年度で入れ替わるためノウハウやプロモーション効果が蓄積されずすべて中途半端、職員の配置転換による専門性の欠如といった弊害を感じることが多い。こうしたことが、非効率なお金の使い方となり、持続可能な財政運営の足かせとなっているので、きちんと正面か

ら取り組むことを上位計画でしっかりと位置付けてもらいたい。

- 組織の理屈があることはわかるが、課題別に組織横断型のチームによる対応や組織横断型の取り組みをした職員の評価基準の創設、また、職員の専門性向上のため、配置転換後の研修や専門家による管理職へのレクチャーの実施のほか、仕様書づくりからの専門家への相談などに取り組んでももらいたい。